



平成29年「第1回岐阜県議会定例議会」において登壇させて頂きました。

質問1

本県では、平成24年に開催された「ぎふ清流国体」ぎふ清流大会で活躍が期待される選手たち222人を獲得。しかし現在も競技を継続しているのはわずか68人で約7割の選手が第線を退いている。両大会に向けて心身を鍛えてきた選手たちは、高いスキルと強いメンタルを兼ね備えた本県にとって財産。

岐阜県体育協会の中に「スポーツリーダーバンク」があり、すでに指導者の派遣事業を実施しておられるが、バンク登録に関するアナウンスは、基本的に日本体育協会公認指導者の資格を有する者にしかされておらず、資格取得は「この次」という考えのアスリートが多いことから広く網羅されていない。

県民にバンクの存在が周知されているとは言い難き現状。

専門性の高いスポーツ人材が不足している中において、これまでのスポーツ人材バンクのあり方を検討・充実させて、即戦力を求めている学校や地域に、これまで以上に高い確率で適した人材をマッチングしていくことが必要であると考える。

今後のスポーツ指導の人材発掘と活用についてご所見は？

清流の国推進部長 答弁

スポーツ指導者について、資格の取得に対する支援や研修会の開催などにより、その確保・育成に努めてきたが、学校や地域の指導現場では未だ指導者が不足し、優秀な指導者の確保は喫緊の課題。

ぎふ清流国体を契機に県で活躍した元選手を中心に、即戦力となり得る人材を改めてリストアップ、意向を確認し、岐阜県体育協会のスポーツリーダーバンクに登録していく。

同バンクを広く周知するとともに、県体育協会に新たに相談窓口を設置して、中学校や高等学校、地域のスポーツ団体など指導者を必要とする団体と指導者とのマッチングを推進していく。

質問2

学校における運動部活動でも事態は深刻であり、教員の多忙化、指導者の不足が喫緊の課題。将来的に健全な運動部活動の成立が危惧される状況。

文部科学省では、学校教育施行規則の一部改正により、4月から学校に「外部指導者」が単独で部活動を指導し、率で「部活動指導員」(仮称)を置くように

清流の国推進部長 答弁

公立高校の一部活動あたりの平均顧問数は、昨年度の調査では2.3人で、概ね複数の顧問で指導にあつていている。さらに、希望する学校のために、県では100人の外部指導者を配置しているが、適切な指導者の選定に苦慮する学校も見られる。

一方、公立中学校の一部活動あたりの平均顧問数は1.8人で、顧問一人で指導にあつている部は全体の38%。また、外部指導者が不在の部は全体の20%程度あり、活用状況にも大きな地域差が見られる。

県教育委員会として、高校については、生徒のニーズに応えるために、より質の高い外部指導者を発掘し、中学校については、専門的技術指導の充実のために、先ず外部指導者を確保したいと考えている。

今後は、清流の国推進部や県体育協会との連携を図り、ぎふ清流国体の選手をはじめとする優秀な人材が登録されるスポーツリーダーバンクの活用を図っていく。

質問3

聴覚に障害のある方々は「コミュニケーション手段」のひとつが手話であり、日本語を話すのと同じように、手話を言語として「コミュニケーション」を図る。平成23年に障害者基本法が改定され

「言語に手話を含む」ことが明記。全国的に手話を「言語」として普及する動きが広がる一方で、手話人材の不足や、手話を学ぶ機会が少ないといった課題を抱えている。

手話を使える社会環境の整備を進めるにあたり、手話通訳者の確保に向けた現在の取り組みと今後の対応についてご所見は？

清流の国推進部長 答弁

手話通訳者になるためには、市町村で行っている手話奉仕員の養成講座を修了した上で、県が行う通訳者養成講座を修了し、全国試験に合格する必要がある。しかし、手話通訳者には、豊富な知識と高度な技量が求められることから、手話奉仕員がこれまでに約1100名養成されているのに対し、最終的に手話通訳者の試験に合格されるのは、毎年数名に留まっており、手話通訳者の確保が困難となっている。

県として、手話通訳者を目指す方が増えるように、手話奉仕員を対象にした新たな研修制度を検討するとともに、手話奉仕員の数そのものも増やしていくため、手話奉仕員の養成講座を一層充実できるように市町村に働きかけていく。

学校や地域に向向く、出前講座を増やすことで、手話に関する県民の関心を高め、少しでも手話通訳者を目指す方が増えるよう取り組んでいく。



ニッポンの真ん中から創生する。

第4号

2017年6月 発行



岐阜県議会議員  
若井あつこ  
県政だより

この春、おかげさまで岐阜県議会議員となり3年目を迎えました。丸2年が経過したとは言え、実感は「まだまだ2年」であり、「あつこ」の間「2年」でした。

初陣となった平成27年4月の選挙には始まり、真新しい議員記章を胸に、緊張を隠し切れず初登壇した定例議会。

また、常任委員会では1年目は「厚生環境」、2年目は「農林」に所属、特別委員会では「県有施設再整備対策」に所属し、本県が抱えるさまざまな課題と向かい合いました。

その他、自民党岐阜県連では、新任議員ながら女性局長を拝命し、女性の健康問題や児童虐待防止に向けての活動などに取り組んでまいりました。

経験不足の私がこうして今日を迎えられておりますのも、皆様のご支援の賜と心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。不慣れながらも全力で二日いちにちを過ごしていく中、私の目指す先がようやく具体的に見えてきたように思います。

県議となる前までの私のライフワークは、スポーツを通じた「人材育成」と考え取り組んできました。

しかし、県政と向き合う中で、スポーツの領域を超えて「人を育てる」ことこそ、私の生涯の仕事として、人生を捧げるテーマであるのではないかと考えるようになりました。

現在、我が国では人口減少、超高齢化社会という大きな問題に直面し、本県においても平成27年の国勢調査における人口は203万人で、5年前の前回調査から約5万人減少している

現状であります。

人口減少が進展していく中において、岐阜県が持続的に発展していくためには、本県を支える産業や地域社会、文化、伝統など、世代を超えた担い手を確保し育成しなければなりません。

そのためには子供から高齢者の方まで、また男性も女性も、そして障がいのある人もない人も、全ての県民一人ひとりが持てる力を存分に発揮し、それぞれに活躍していただくことが、これまで以上に重要となり、地域の活力創出につながります。

今年1月の岐阜県知事選挙において4期目の当選を果たされた古田はじめ知事も、「人づくりこそあらゆる政策の基礎」であり、「永遠の課題」であると述べておられます。

私たちは様々なシチュエーションにおいて、常に人に支えられて生きており、人なくして私たちの未来はありません。

私たち一人ひとりには個性があり、世代が違い、育ってきた環境が違うからこそ、様々な立場に置かれている人を理解することができると考えています。そして、それぞれ持つ個性を必要としている場所が、必ずあるはずだと信じています。

かけがえのない一人ひとりが、地域の活力を生み出す源であり、それぞれが生きがいとやりがいを持ち、思う存分力を発揮できる社会を整えていくのが、私に課せられた使命であることをしっかりと心に刻み、

「誰もが主役」になれる舞台を、

「ニッポンの真ん中から創生する!!」

その実現に向け、肝胆を砕く覚悟で3年目も全力で取り組んでまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

若井あつこ事務所  
〒500-8323 岐阜市鹿島町1丁目10番地 加藤第二ビル2階  
TEL.058-252-1115 FAX.058-252-1151  
✉ wakai-jimusho@marble.ocn.ne.jp



※「県政だより」等がご不要な方、もしくはお名前やご住所に変更のある方は、お手数ではございますが事務所までご連絡頂きますようお願い致します。

# 活動報告

## 農林委員会 県外視察〈北海道〉

有限会社余湖農園 ▶ 恵庭市黄金ふれあいセンター ▶ 株式会社北海道熱供給公社の中央エネルギーセンター ▶ サッポロさとらんど

平成28年10月25日・26日



↑ 恵庭市黄金ふれあいセンターは、北海道産カラマツ集成材や道南スギを使用した温かみのある開放的な空間づくりが行われている。  
↑ 中央エネルギーセンターにある、天然ガスと木質バイオマス燃料としたボイラーです。燃料灰は全量再資源化が実施されています。

余湖農園は多品目の特別栽培野菜を生産する、JGAP認証農場にも認定された大規模農場です。

ハウスの暖房には木質ボイラーを設置し利用しています。



**JGAP認証農場とは？**  
● JGAPとは、農業に関わっている生産者団体が活用している農場管理の基準で、全部で120を超える厳しいチェック項目が設けられており、農場に使われている農業・肥料の管理を始めとし、様々な事を審査されます。  
● この審査で基準を満たしている農場は、食の安全や環境保全がしっかりしているという事になり、認定を受ける事が出来ます。

## FC岐阜 キックオフパーティー

平成29年2月17日

FC岐阜は、J2参入10年目を迎えました。新生FC岐阜のご活躍をお祈りいたします。



心からエールを送ります！



## 第14回 全日本知的障がい者サッカー大会

平成29年3月19日

決勝戦が各務原市総合運動公園で開催され、閉会式にて岐阜県連盟会長としてご挨拶させて頂きました。



3月15日※ 第1回定例議会での一般質問後 関連記事が中日新聞(4月27日※)に掲載されました

## 清流国体元選手を指導者に



清流国体元選手を指導者に  
岐阜県連盟会長としてご挨拶させて頂きました。

## 農林部会視察・勉強会

東京木材会館 ▶ 東京おもちゃ美術館 ▶ 勉強会  
平成28年11月21日・22日



↑ 東京木材会館7階、檜のホールの屋根を支える大梁は、檜の12cm角の木材で組みまれています。



東京木材会館 1階東側の壁は、檜の角材をランダムに組み合わせたユニークな壁面です。



↑ NPO法人が自主運営しているミュージアムで、赤ちゃんからお年寄りまでの多世代が木のおもちゃを媒介に楽しいコミュニケーションがとれる場所です。



おもちゃ美術館2階にある木の砂場は北海道北見市産の広葉樹2万個で作られています。

## 飛騨視察

飛騨市役所 ▶ 飛騨古川まつり会館  
平成28年12月20日・21日

昨年12月、飛騨古川祭の「起し太鼓・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。

古川祭は毎年4月19日、20日に開催され、飛騨古川まつり会館では祭屋台が常時展示されています。



## 第33回 (公財)日本中学校体育連盟岐阜大会 中体連シンポジウム

平成29年1月19日・20日

シンポジストとして、これからの学校運動部活動のあり方についてお話をさせて頂きました。



## 平成29年度 岐阜県一般会計当初予算

### 「清流の国ぎふ」づくりの全開

平成29年度は、節度を保った財政運営と、メリハリのある政策展開を両立していくとともに、「清流の国ぎふ」づくりを一層深化させ、全開していくための積極予算を編成。

一般会計予算 8,114億円 対前年度 当初予算比 +0.1% 5年連続の増額予算

